



「藍布屋 味野店 自分だけのこだわり  
ジーンズを求めて来店する人も多い」



藍布屋 藍染め工房  
「藍のぞき」



繊維の町児島でも珍しい  
本藍染め専門の工房

天然藍を使い、古くからの手法で一本一本手染めにこだわる。そして、手織り機で織り上げる。「藍布屋 味野店」にある鶴の工房で、独自開発の手織り機を使って織り上げられるデニムは、一日にわずか一メートルしかできない。そんなこだわりのジーンズは、いまままでに見たことのない色合いと手作り感いっぱいのものだ。藍布屋オリジナルジーンズには、桃太郎のマークが付いているのも、岡山らしくてよい。

「児島駅から歩いて五分の『藍布屋

### 藍布屋(らんぷや)

藍染め工房 藍のぞき」にも行ってみた。工房に入ると、においがする。藍のにおいだそうだ。瓶の中の藍は、茶色い。液の表面には、泡ができています。「この泡は、藍の花といつて、たくさんある方が、藍が活発な証拠なんです」と、染師の岡本好春さん。においと藍の花で、藍の状態がわかるのだという。瓶の中に白い布を入れて、引き上げると、布は、薄い緑色に染まった。それを水洗いして酸素に触れさせると、水色に変わった。まるで手品を見ているようだ。染めるといわゆる藍色になるのかと思っていたが、水色を濃

くしていくには、さらに何回も染めを繰り返していくのだそうだ。瓶の中一回潜らせただけの色を「瓶覗きかめのぞき」という。工房「藍のぞき」の名もこれに由来する。

藍の原料となる植物の葉を乾燥させ、約百日かけて堆肥状にした「すくも」に、硬い木の灰を湯で溶かしたアルカリの強い水「灰汁」を入れて、毎日朝晩かくはんする。夏場は十日、冬場は一カ月ほど繰り返す。やっと藍の仕込みが完了する。「かくはんすること、藍に酸素を入れてあげて、仕込み段階で、栄養として日本酒、水飴を糖分としてあげます」岡本さんの言葉には、まるで「ペットか、子どもを育てるようなやさしさがあり、藍が生き物であることと、だからこそ、こだわって育てているのだということ

「日本のジーンズ発祥の地 倉敷児島」駅で何気なく手にしたJR西日本のパンフレットの中に、児島の紹介記事をみつけた。児島が紹介されたあとに「ちよと足をのぼして、倉敷・岡山エリアへと、倉敷の美観地区や岡山城・後樂園が載っていた。岡山・倉敷がメインで、ちよと足をのぼして児島が普通なんじゃないだろうかと思いつつ、なぜか気になり、大事に持っていた。パンフレットをみつけた日から数ヶ月たつて、岡山に行く機会ができた、一冊のパンフレットに導かれるかのように、私は、児島へと向かった。

JR児島駅までは、岡山から快速マリンライナーで約二十五分。児島周辺には、ジーンズショップや染め工場「ニュージーム」などのジーンズ関連スポットがあるが、それぞれが少し離れていて、残念ながら歩いて回れる距離ではない。倉敷市とバス会社のタイアップにより、これらの施設や周辺の名所に近い停留所を回る「ジーンズバス」の運行が二〇〇六年三月四日に開始されたことで、観光の足ができ、各施設を回りやすくなった。今回は、この「ジーンズバス」に乗り、児島の見どころをめぐってみた。

## ジャパン・ブルー に染まる町

倉敷市児島

山本 恵



児島を便利にめぐる「ジーンズバス」



「ジーンズバス」の側面

### DATA

#### ジーンズバス

運行日: 土・日・祝日

春休み・夏休み期間は毎日運行

年末年始は運休

料金: 1回乗車(均一運賃)

大人 160円、子ども 80円

1日乗車券 大人 500円、子ども 250円

問合せ 下津井電鉄 TEL 086-298-9011

倉敷市観光企画課 TEL 086-426-3411

URL: <http://www.kojima-cci.or.jp/osirase/jeansbus.html>

[osirase/jeansbus.html](http://www.kojima-cci.or.jp/osirase/jeansbus.html)



「高城染工場」地面に埋め込まれた藍甕

**DATA**

**高城染工場**

営業時間: 13:00~17:00

定休日: 不定休

アクセス: ジーンズバス

「下之町鴻八幡神社前」

バス停から徒歩約4分

TEL 086-472-3105

「高城染工場」は、大正時代から続く藍染めの老舗。バスを降り、昔ながらの工場をイメージしながら、歩き始めた。地図で見るとこの辺りという場所に着いたとき、おしゃべりなブティックのような店があった。これは違うなと通り過ぎようとしたとき、工場の角南(すなみ)みどりさんに声をかけられた。お店の中に入ると、藍染のTシャツやジャケット、スカート、小物などが並んでいる。老舗の工場というイメージとのギャップに驚いたが、角南さんの息子さんが、工場の一部を手作りで洋風のショップにした

**高城(たかしろ)染工場**

のには、わけがあった。ショップに並んでいる藍染め製品は、販売もしているが、展示サンブルで、古着を藍染めにし、リメイクし、もう一度着てもらうことを考えているそうだ。現在、郵便局がたぐさんあるのと同じくらい昔は、紺屋と呼ばれる染物屋があり、人々は着物の染め直しをしてもらっていたとのこと、そんな昔の「紺屋」を目指しているとのこと。若い人も染め直しのものを気軽に持つて来られるように、洋風ショップにしたそうだ。近所の喫茶店のオープン記念に手ぬぐい、めがね屋さんの依頼でめがね入れ、浴衣に合わせたユサージュなど新しいアイデア商品も置かれていて、おもしろい。

**野崎家旧宅**

**野崎家塩業歴史館**

工場は、洋風ショップとは一転、昔ながらのもので、十二個の藍甕が地面に埋め込まれている。染めるためには、かがまなければならぬため、大変ではないかと聞くと、昔は地中に埋めた方が温度管理に適していたのだという。高城染工場でも、予約をすれば、藍染め体験ができる。

「野崎家旧宅」は、江戸時代後期に塩田事業に成功し、日本の塩田王と呼ばれた野崎武左衛門(ぶさざえもん)氏の屋敷だ。貴賓の応接にあてられた表書院や、住まいの中心としていた母屋、枯山水の庭園や土蔵群と、総敷地は約三千坪あり、当時の塩田業の繁栄がしのばれる。建物と庭園が創建当時のままに保存されているのがめずらしいそうだ。土蔵群の中が展示室になっていて、製塩の歴史を学んだり、江戸時代からの民具や生活用具の展示を見たりできる。文政十二年(一八一九年)以来、現在も瀬戸内の海水から塩づくりを続けている

を実感した。予約をすれば、藍染め体験ができるので、ぜひ本物の藍を感じてみよう。

**DATA**

味野店・手織り工房 鶴の工房

営業時間: 10:00~16:00

定休日: 月曜日(祝日の場合は翌日)

アクセス: ジーンズバス「野崎家

旧宅前」バス停から徒歩約1分

TEL 086-472-1301

藍染め工房 藍のぞき

営業時間: 10:00~16:00

定休日: 日曜日・祝日

アクセス: 児島駅から徒歩約5分

TEL 086-473-3670

URL: <http://www.aizomejapan.com/>

**ベティスミス・  
ジーンズ・ミュージアム**

レディーズジーンズブランド・ベティスミスが開設した、国内唯一のジーンズ資料館「ベティスミス・ジーンズ・ミュージアム」に入ると、一九五〇年代のリーバイス製ジーンズを着た大工おじさん人形が迎えてくれる。一階では、ジーンズ誕生の歴史やジーンズができるまでを展示。ジーンズを縫



「ベティスミス・ジーンズ・ミュージアム」外観

うための特殊なミシンや色落ちなどの洗い工程で使う大きさの違う軽石やボールなども置いてあり、普段着ているジーンズ製品が、こんなに奥深いものだったのかと感心させられる。二階に上がると、吹き抜けの天井につけられた扇風機などがアメリカらしい雰囲気だ。ベティスミスの歴史とともにジーンズの時代変遷などをゆつくり鑑賞できる。また、資料館から歩いてすぐのアウトレットショップでは、掘り出し物をみつけて購入する観光客も多いという。オーダーメイドでオリジナルジーンズを仕立てるサービスもあり、ジーンズの歴史を知り、

**DATA**

ベティスミス・ジーンズ・ミュージアム

入館無料(中学生以上 200円、小学生以下無料・2007年4月~予定)

開館時間: 9:00~17:00(平日)

11:00~17:00(土・日)、土・日・祝日

は事前に確認必要

アクセス: ジーンズバス「下之町鴻

八幡神社前」バス停から徒歩約3分

TEL 086-473-4460

URL: <http://www.betty.co.jp/index.htm>



ジーンズの魅力いっぱいの館内

マイジーンズを作ってもらおうと、ジーンズにもさらに愛着が持てそうだ。

児島駅から、下津井循環バス「とこはい号」に乗った。下津井は、瀬戸内海を望む漁港、江戸時代から明治時代にかけて、北海道とれたニシン粕、かずのこ、こんぶなどを積んできた北前船が、港に着くたびに、大変賑わっていた。「むかし下津井回船問屋」は、回船問屋の建物ができるだけ当時に近いかたちで復元している。建物は、江戸時代に金融業と倉庫業を営んでいた荻野家分家の西荻野家の住宅を、明治

むかし下津井回船問屋

DATA

株式会社バイストーン  
倉敷帆布ショールーム  
営業時間：10:00～17:00  
定休日：日曜日  
アクセス：下津井電鉄/バス  
天城線倉敷行、「沖縄手」  
バス停から徒歩約2分  
TEL 086-485-2112  
URL <http://www.baistone.jp/>

かつて広大な干拓が進められた児島湾では、塩分の多い土壌でも育ちやすい綿花が盛んに栽培されていた。その



往時の風情を今に残す「むかし下津井回船問屋」

DATA

むかし下津井回船問屋  
入館無料 開館時間：9:00～17:00  
(入館は 16:30 まで)  
定休日：火曜日(祝日の場合は翌日)  
年末年始  
アクセス：下津井循環バス「とこはい号」  
「下津井漁港前」バス停から徒歩約1分  
TEL 086-479-7890

初期に「廻船問屋高松屋(中西家)」が取得したもので、商家の母屋やニシン蔵として使われていたそうだ。下津井の歴史や商家の暮らしを紹介する展示があり、私が訪れたときには、ツアーで来られたお客さんにボランティアガイドさんが説明をされていた。ボランティアガイドさんが歌う「下津井節」が聞かされた。すばらしい声で、目を閉じて聴いていると、賑わっていたその下津井港と近づく船に自分が乗っているかのような錯覚に陥った。天気によければ、港近くの下津井名物のタヌが干されている風景を見ることが出来る。また、鷺羽山展望台からは、瀬戸大橋や、美しい島々を眺めることができ、瀬戸内マリンブルーを感じられる。

綿花により児島は、日本有数の繊維の町に発展した。瑜伽(ゆが)大権現参拝の人々のみやげ物としての真田紐、小倉織、足袋、そして、学生服、作業服。時代とともに製品は変わりながらも繊維産業の町としては、変わらなかった。約四十年前、ビッグジョーンズが日本初の国産ジーンズを生産し、児島は、「ジーンズの町」となった。塩と木綿とイカナゴの「児島二百」は、町の由来を物語るといわれる。いま、「白」から、ジーンズと藍染めの「ジャパンプルー」に染まった町・児島は、観て、体験して、こだわって、ゆっくと回り、たい町に変わろうとしている。

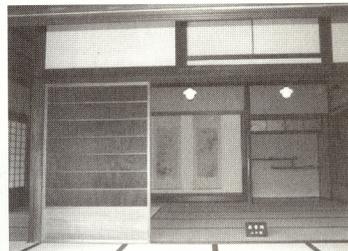
DATA

野崎家旧宅・野崎家塩業歴史館  
大人 500 円 小・中学生 300 円  
公開時間：9:00～16:30(閉門 17:00)  
定休日：月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始  
アクセス：ジーンズバス  
「野崎家旧宅前」バス停から  
徒歩約1分  
TEL 086-472-2001  
URL [http://www.naikai.co.jp/J\\_MUSEUM.htm](http://www.naikai.co.jp/J_MUSEUM.htm)

るとのこと、関西でもコンビニエンスストアで売られているおにぎりに「瀬戸のほんじお使用」と書かれていることを思い出した。昔ながらに濃い塩水



展示室になっている「野崎家旧宅」の土蔵群



「野崎家旧宅」表書院



「倉敷帆布ショールーム」外観



帆布の素材な風合いが感じられる展示品

を煮詰めて塩を作れる「塩づくり体験」もできる。(予約必要)  
ジーンズバスの路線ではないが、児島周辺にあるほかの見どころにも興味があり、訪れた。

株式会社バイストーン  
倉敷帆布(ほんぶ)

ジーンズとともに倉敷を代表する産業、帆布。撚(より)合わせた綿糸を用いて織った平織りの地厚い織物を帆布という。江戸時代末期から帆船に使われ、瀬戸内海沿いの港には、さまざまな帆布の産地があったそう

が、綿花の栽培や綿から糸を撚る技術があった倉敷の曽原地区では、現在までその産業が残り、国産帆布の約七割を生産している。  
倉敷帆布の機屋(はたや)が直営する株式会社バイストンの「倉敷帆布ショールーム」は、糸の倉庫を再利用した建物。中に入ると、帆布製器具が並べられたおしゃれな空間になっていた。天然の素材な味わいの帆布のトートバッグやポーチ、ランチョンマットやコースターなどのキッチン用品があり、眺めているだけでも楽しい。帆布は、撚る糸の本数によっても厚みが決まり、十一種類の規格があるとのことだ。見本の生地を手で触ると、厚みの違